

死は怖くない

編み物の手を休めた。木が生い茂る庭を見つめ、柔和な表情を見せた。宮崎市の入部アイ子さん(90)は「かあさんの家」で暮らして2年が過ぎた。いくつかの死を見てきた。次は自分の番かもと思うが、心は乱れない。「みんな優しくしてくれます。人生に満足していますから、何も怖いことはありません」

みんな優しいから



編み物をするアイ子さんに、ゆっくりと時が流れる=宮崎市の「かあさんの家」で、矢頭智剛撮影

引退後は、次女夫婦との2世帯住宅を鹿児島市内に構えた。だが、3年後に夫が心筋梗塞で急逝した。間もなく次女の夫も亡くなり、5年前に長女の愛甲保子さん(69)の住む宮崎市にやってきた。

04年12月、病院に併設された宮崎市内の老人ホームを見学した。完全個室、シヤワー完備、IHクッキン

3LDKのマンションに入った。保子さんが食事を持つて来たり病院まで迎送したりしてくれた。だが、マジンションから緑は見えなかつた。「変な物音が聞こえなど」とアイ子さんは不

のはないが、ベッドで寝たきりになっている患者の息が荒くなったり、たんが詰まっている。私が「万が一のとき他の病院を紹介します」と聞いた。アイ子さんは温かさがない。寂しい感じがした」と言う。知人の紹介で「かあさんと優しく声をかける。患者の息づかいが『ナースコール』だった。

アイ子さんは比較的認知

の家】を訪れたのはそのすぐ後だ。手入れの行き届い

た庭が見える部屋や優しく

接してくれるスタッフが気

に入った。施設のように最

新設備が整っているわけで

はないが、ベッドで寝たき

りになっている患者の息が

荒くなったり、たんが詰ま

う私もいざれはある

た。「母と夫の2人が

同時に倒れたら……」

た。診察だけで「万が一のとき

他の病院を紹介します」と

言葉がすればスタッフが来

て介助し「大丈夫ですよ」

昨日9月、家族が卒寿の

2人が家族に囲まれて亡く

なった。「もう90歳ですか

ら、私もいざれはある

だろうと思います」

2人が家族に囲まれて亡く

なった。「もう90歳ですか

ら、私もいざれはある

だろうと思います」

2人が家族に囲まれて亡く

なった。「もう90歳ですか

終末期を見つめて
かあさんの家から

■5■

開業医の夫と鹿児島県高山町(現肝付町)で暮らし、5人の子供を育てた。夫の

「親不孝ではなく『子不孝』って言っているんです」とアイ子さん。「早くお父さん(夫)のところに行きたかったと思つてもなかなか行けない。その日までここで暮らします」。庭の木に南国の大差しが降り注いでいた。この連載は関谷俊介が担当しました

おわり